

ほぼ「毎日、放送する」—宮古高校の場合

岩手県立宮古高等学校 放送部顧問
山崎治子

1 宮古高校放送部紹介

宮古高校放送部の基本方針

時を守り、場を淨め、礼を正す

皆がハッピーになれる放送を 作り手/対象/受け手 学校生活が円滑に回るように

全員が喋り、全員が作る

宮古高校放送部の活動内容

① 校内放送 ②校内行事 ③コンテスト ④その他(めんこいテレビ用 交通安全CM等)

2 宮古高校のお昼の放送実践

(1) ほぼ「毎日、放送する」

検査の日 放送しない

検査期間 連絡事項/天気予報

それ以外 連絡事項/ニュース2本/天気予報

(2) 最低限守っていること

開始時刻 4校時終了の10分後の12:30開始 終了は不定平均7分程度

構成

(3) 宮古高校の特徴はアナログ

(写真) ホワイトボード 紙の担当表と計画表 紙の原稿綴り

番組全体を構成する人間なし

(写真) 連絡依頼

稀に親切なメモ 概ね不親切なメモ 放送中や放送後にくるメモ

(写真) 部日誌

部活動開始時に反省をする 日誌にコメントを書く

(4) 原稿のチェックの仕組み

同級生および上級生チェック →顧問 …機能しないことも

話題はホワイトボード、部活動最初のミーティングで確認

(5) 原稿の方向性の実際

部活動の大会前後 案内的なもの 学校生活 町の話 過年度のものを参考に時々新しいもの

問題点…コンテスト的な短さ、文体 取材のないポスター内容の焼き直し

(6) 顧問が重視していること

不親切なメモから迅速に正しい連絡アナウンスができること

ライブの際に原稿を書かずにメモだけで脳内で構成して対応できるように

→他の仕事の際に最も大事なこと

例 吹奏楽コンクール司会 宮古市民文化会館復興記念式典舞台発表司会

ライブで

…放送終了後コメントしに放送室に行く、場合もある

(7) 宮古高校の聞き手

生徒 / 教師 (全日 / 定時 / 通信) …職員室への放送はなし / 事務室

結構聴いている気配がある…これまでの成果? 甘やかされている? 期待されている

(8) 聞き手が期待していること

必要な連絡が、自動的に、正しく伝えられること

活動が取り上げられること

感じよいこと

(9) 4年間での聞き手の変化

呼び出し放送の減少 連絡放送への期待

3 宮古高校放送部新入生の一年はだいたいこんな感じ

4月下旬	入部。 1 番組、アナ朗の記録を見続ける。 2 「声の練習帳」 (『はじめてのボイストレーニング』雷鳥社 松濤アクターズキムナジウム) 3 『新NHKアナウンス教室』(NHKサービスセンター) 1～3を6月の大会が終わるまで自習。 「他己紹介」原稿などをアナ3年の指導で書く。 「純情応援歌」制作。
5月連休後	上級生のアナ朗校内選考の日、「ラブレター」(『はじめてのボイストレーニング』)読む。
6月	昼の放送見学開始
7月	全国大会で人々が不在の間、映像編集の練習。音声編集は可能な人は自宅で。
夏休み	CM制作 MIT番組制作開始 原稿書き練習(今年は失敗)
夏明け	全国大会出場した先輩の原稿をアナウンスするテスト →その後昼の放送デビュー
修学旅行中	昼の放送 2年生が戻ると「外郎売り」テスト
年度末	新入生歓迎会用ビデオ制作

4 宮古高校のアナウンス・朗読

(1) 喋りの基本方針

- ・アナウンス基本。朗読は、新人大会で朗読を選ぶ人がその時期に始める。読書はしておくべし。
- ・アナ朗とともに、すっきりさっぱり意味のまとまりが分かるように喋ることが前提。
→アナウンスは、さらに、きっぱり言い切ろう。ただし、我を出さずに中身を伝える。
プロのシャドウイング推奨。
→朗読の表現は、その先にある。
『朗読にチャレンジ』NHKサービスセンター
『現代文の朗読入門』杉沢陽太郎 日本放送出版協会
『現代文の朗読術 実践編』杉沢陽太郎 日本放送出版協会
『現代文の朗読術 名作に秘められたリズム』杉沢陽太郎 NHK出版
『これが本当の朗読だ』高梨敬一郎 メディアアイランド 等

(2) 朗読のテキスト選定の特徴

- 音声に向くかどうかは後回し。伝わりやすさも後回し。
- 好きなところ。読むに値すると思うところ=多少文学よりになる。

5 宮古高校の番組制作

(1) 制作の基本方針

- 前向きであること 切り口が明るいこと
- 取材者 被取材者 視聴者 全員が楽しくなること

(2) 特徴のようなもの

- ・ラジオの方が得意・・・環境の問題もあるけれど
- ・ドキュメントの方が得意・・・無から有を作り出す知の蓄積のなさに問題があるということ
- ・先達の言うことはとにかく聴く
- ・ただし、ドキュメントについて先達の指導を守らないことが1つ
→ 伝えたいことを伝えるための予定通りのドキュメントは作らない

人の目/耳 と 機械の目/耳は違う

→記録された映像と音（言葉）をよく観察して見出すものがあるはず

(想田和弘監督の「観察映画」概念参照)

参考 『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』講談社現代新書

『カメラを持って、町へ出よう 「観察映画」論』集英社インターナショナル

『演劇VS映画 ドキュメンタリーは「虚構」を映せるか』岩波書店 等

取材する人とされる人の関係性が記録される 関係性の中で起こる変化を捉えたい
カメラを向けることの暴力性 や 編集することの権力性に鈍感にならないようにしたい (アナも)

- ・限られた環境、ある条件の中で良い仕事ができる人間に (福島県立磐城高校中野淳之先生)